

‘星空舞’における 良食味米生産に向けた穂肥施用法

‘星空舞’の高品質・良食味米の安定生産に向けた栽培体系の確立のために、より高い目標値である食味値80以上を設定し、収量500kg/10a以上とあわせて達成するための葉色診断法に基づく穂肥施用法を明らかにしました。



‘星空舞’の分施体系栽培における適正な穂肥施用量

	施用時期	葉色値 (SPAD値)	葉色板	窒素施用量
穂肥Ⅰ	幼穂長8~10mm	35以上	4以上	無施用
		35未満	4未満	2kg/10a
穂肥Ⅱ	穂肥Ⅰの7~8日後	35以上	4以上	無施用
		32~35	3.5~4.0	1kg/10a
		32以下	3.5以上	2kg/10a

※葉色（葉色板）の目安は「星空舞」栽培手帳をご覧ください。

【穂肥Ⅰ施用法】

穂肥Ⅰ施用で増加

- 総粒数が26,300~29,800粒となる窒素施用で収量500kg/10a以上、食味値80以上を達成可能です。

👉 穂肥Ⅰ施用時期の葉色が35以上では粒数過剰となる窒素条件にあるので、食味値低下防止のため無施用とします。

【穂肥Ⅱ施用法】

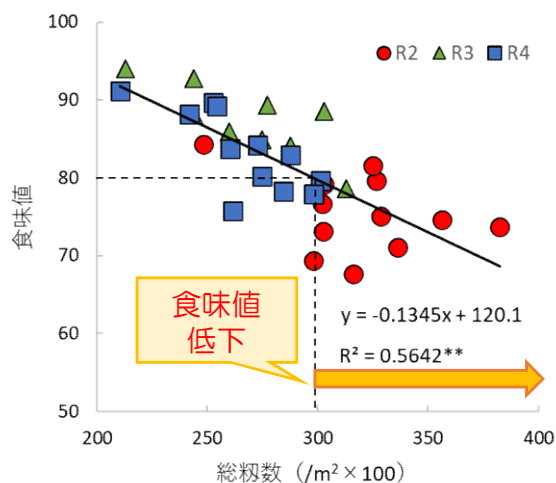
- 収量500kg/10a以上を達成するためには、出穂期葉色を33以上とする必要があります。
- 食味値80以上を達成するためには、出穂期葉色を36以下とする必要があります。

👉 出穂期葉色を35程度に誘導することが有効です。

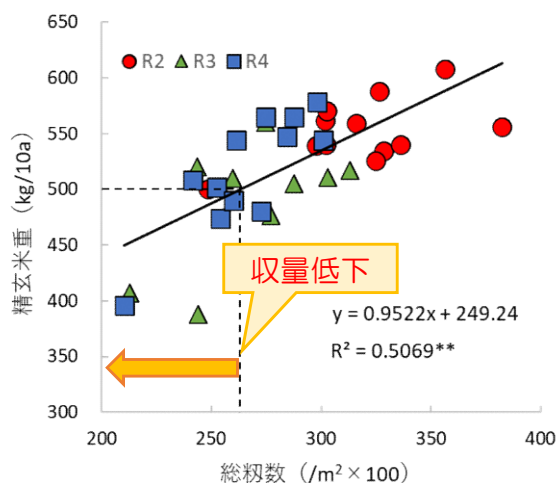
【具体的データ】

穂肥Ⅰの考え方

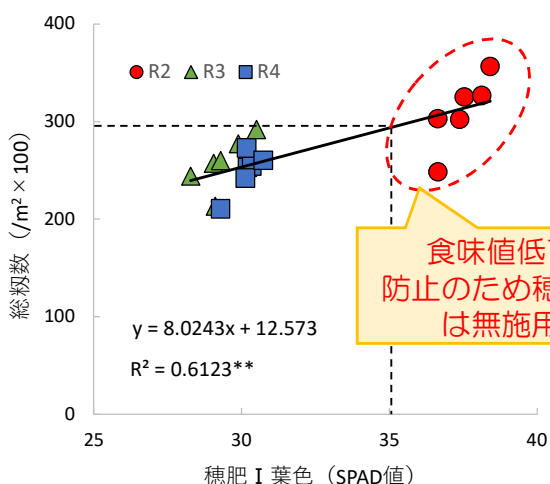
総籾数と食味値の関係



総籾数と精玄米重の関係

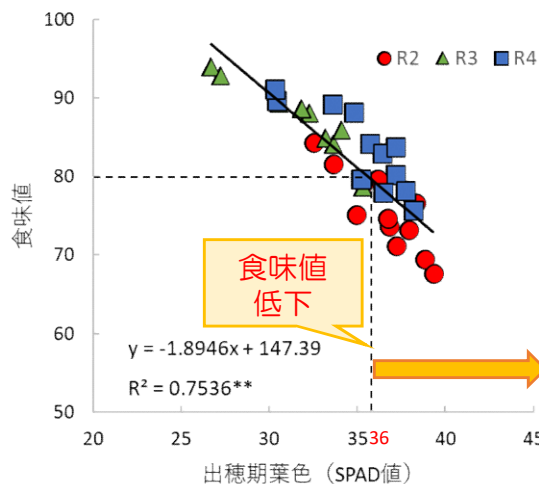


穂肥Ⅰ葉色と総籾数（穂肥Ⅰ無施用）の関係

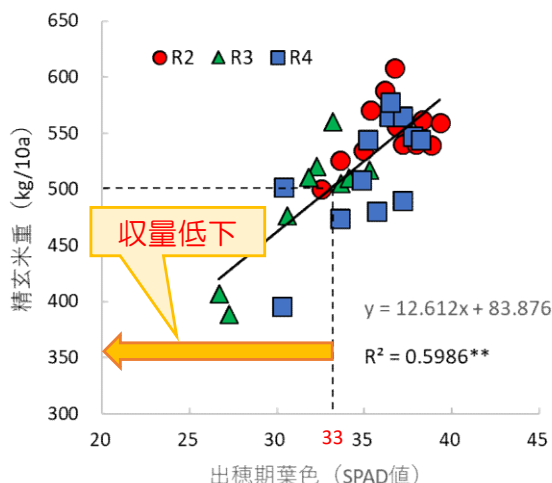


穂肥Ⅱの考え方

出穂期葉色と食味値の関係



出穂期葉色と精玄米重の関係



穂肥Ⅱ施用時の葉色変化量（3年平均）

穂肥Ⅰ 窒素施用量 (kg/10a)	穂肥Ⅱ 窒素施用量 (kg/10a)	SPAD値		
		穂肥Ⅱ 施用時	出穂期	差
0	0	29.3	30.1	0.8
	1	30.3	33.5	3.2
	2	30.1	36.0	5.9
2	0	34.9	34.6	-0.3
	1	34.9	36.0	1.1
	2	34.0	37.4	3.4

出穂期葉色が35程度に誘導すると収量・食味値ともに目標達成可能

利用上の留意点

- 1) 試験場内の低地水田土壌で2020～2022年に行った試験である。
- 2) 穂肥Ⅰの施用は幼穂長8～10mm時に、穂肥Ⅱの施用は穂肥Ⅰの7～10日後に実施する。
- 3) 葉色の目安は「星空舞」栽培手帳をご覧になるか、最寄りの普及所にご相談下さい。